

## A-1 学校研究

### 1. 研究主題

# 自分の考えをもち、自分の言葉で表現する子 ～活用力を育む国語「読むこと」の授業づくりから～

### 2. 主題設定の理由

本校では、昨年度より、思いを伝え合って人と関わり合うことが苦手であるという児童の実態から、言葉を豊かにすることでよりよい人間関係が築けるのではないかと、それまでの道徳に加え、国語科で「話すこと・聞くこと」の言語技術の習得を中心にコミュニケーション力の育成を図ってきた。その言語技術を実の場で生かすために「読むこと」の授業に話し合い活動を積極的に取り入れてきた。読み取った考えを交流する中で互いの考えの違いに気付き、自分の考えを広げたり深めたりすることができ、子ども達はコミュニケーションの大切さを感じることができた。また、根拠を明確にしてわかりやすく話すようにもなってきた。

しかし、昨年度の全国学力調査で「漢字の読み書き」や「指示語、接続語等」の言語事項に関する力は良好であるが、全般に「活用」に関する問題に課題が残った。特に、文章や資料を読んで理解したことを、自分の知識や経験に照らし合わせて自分なりにまとめて表現することを苦手とする児童が多いことがわかった。他の教科の学習などでも、調べたことをそのまま引用しただけのレポートも多く、必要な資料を選び自分なりに解釈し、自分の考えをもち、相手にわかりやすく伝える力が弱いという傾向が見られる。

また、学校生活全体の中で、指示されたことは何とかやり遂げるが自分で考えて主体的に取り組む児童が少ないという実態がある。

読む力を「情報を批判的に読み取り、論理的に自分の考えをつくり出す力」と捉えると、現在の情報化社会において読む力は主体的に生きていく力として最も重要な力と考える。本校の子ども達には、その「読む力」に課題があり、「読む力をつける教師の授業力」も伸ばしていく必要がある。

本年度、本校は「活用力推進モデル校」の指定を受けることとなった。「活用力」とは、習得した基礎的基本的な知識・技能を実生活で活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等である。新指導要領では、どの教科等においてもその基盤となる言語活動の充実が重点として挙げられている。

そこで、本校での「活用力」を考えたとき、言語能力の根幹を成す国語科で、昨年度の取り組みの成果と課題を踏まえ、「コミュニケーション力」を活かす交流の場を取り入れながら、「読む力」をつけることで「活用力」を育むこととした。教材文を「読む」で、終わるのではなく、単元構成を工夫し、目的に応じて読んだことを基に自分の考えをまとめて表現する活用の場を取り入れていきたい。その際、他の領域や他の教科等との関連を図っていきたい。表現するとは、自分の考えを相手意識、目的意識をもって自分の言葉でわかりやすくまとめて伝えることであり、表現する過程で、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育むことができると考えたからである。また、活用することで、実感をともなった理解となり、知識や技能の習得が一層確実なものとなると考えた。

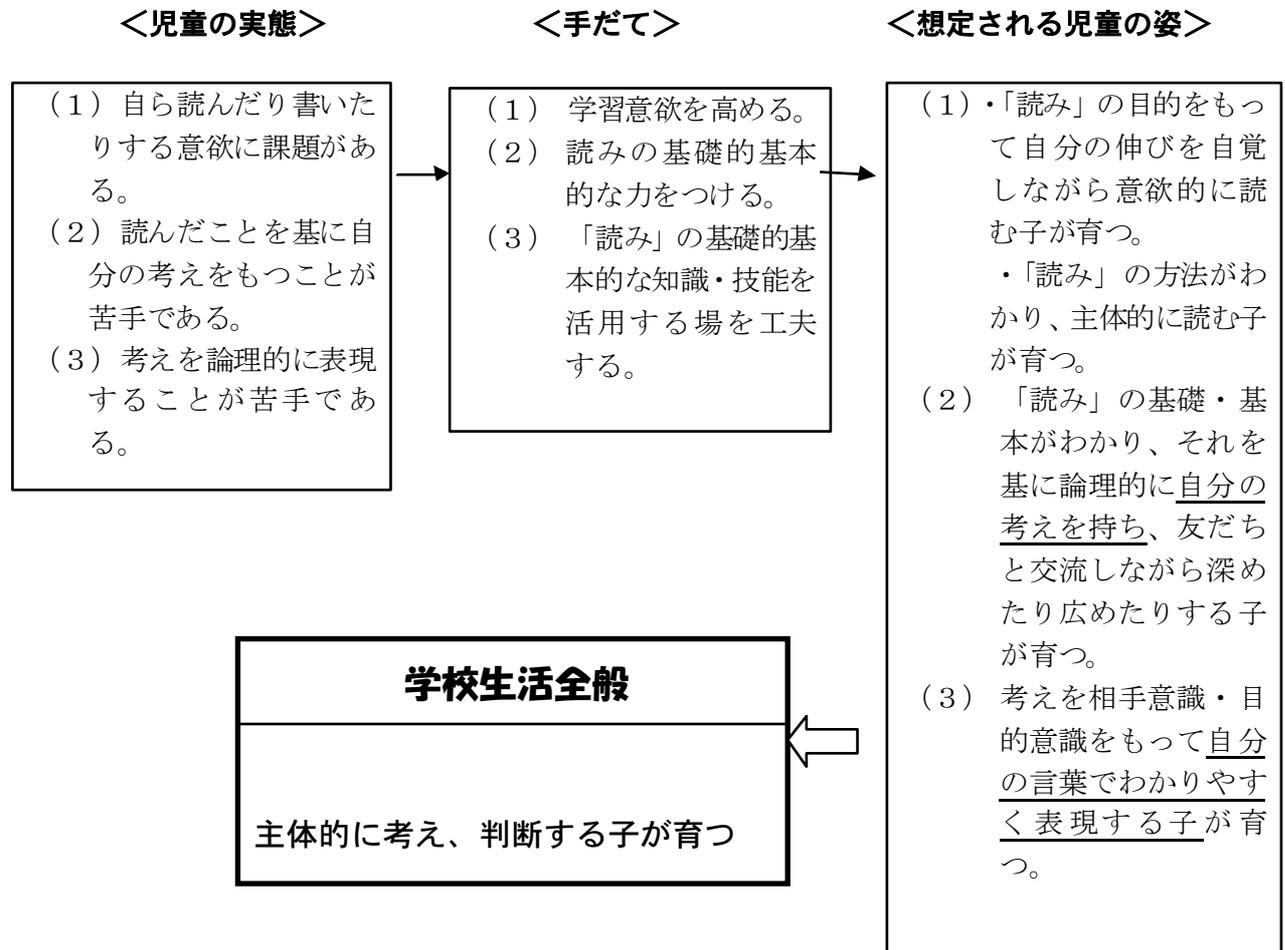
さらに、学校生活の様々な場面で、児童に考えさせ表現させる場を意識して取り入れていくことで、国語科で育んだ力を生きて働く力に高めたい。

このように本校では、研究主題『自分の考えを持ち、自分の言葉で表現する子』をめざすことが活用力の育成につながると考えて国語科を中心に研究に取り組むこととした。道徳の研究で培

った共感的な学級作りや自己肯定感を育む児童理解を土台として「生きる力」としての学力を育んでいきたい。

#### 4. 研究の仮説

##### 国語科で



#### 5. 研究の内容と方法

##### (1) 学習意欲を高める。

- ・ 「読み」のゴール（読みを活かす活動）を、児童の実生活に即した興味関心の持てるものにする。
- ・ 学習の見通しをもつ活動を工夫し、「読み」のゴールを子どもと教師が共有する。
- ・ 「読み」の基礎・基本を習得させるために考えたいくなるような言語活動の工夫（教材のしかけ）を図る。
- ・ 学習したことを振り返る活動を取り入れ、自分の学びが自覚できるような評価の方法を工夫する。

##### (2) 読みの基礎的基本的な力をつける。

- ・ 6年間の「読み」のつきたい力の系統性を大切に指導する。
- ・ ねらいが達成できるような「読み」の手立てを探る。
- ・ 既習を振り返り児童の実態を把握する工夫をする。
- ・ 一人一人が考えを持つ時間を確保し、考える手だてを工夫するとともに、友だちと交流しながら考えを広げたり深めたりする場を取り入れる。

### (3) 読みの基礎的基本的な力を活用する場を工夫する。

- ・ 「読み」で習得した知識や技能を活かす場となるとともに、活用することで習得がはかれるような表現の場（読みのゴール）を書く活動として取り入れた単元構成を工夫する。
- ・ 書いたものを交流したり発表したりする場を工夫する。
- ・ 他教科等での言語活動の系統性を洗い出し相互に関連させる。

### (4) その他

#### <言語環境の充実>

- ・ 「なぎさタイム」を利用して、コミュニケーション力（話す・聞く）の基礎づくりをする。
- ・ 読書タイムなどを利用して読書に親しむ機会をつくったり、授業の中で読書への関心を高めたりする工夫をする。
- ・ 日常生活における言語環境の充実を図る。（教師の適切な言葉遣い・日常生活での言葉遣いの指導・言語の感性を育む掲示物の工夫等）

#### <活用力の向上>

- ・ 各教科で言語活動（記録、要約、説明、論述など）を充実し、一人一人が考える場、書く場、交流する場を設ける。
- ・ 日常生活の中に子どもが主体的に考え判断をする場面を意識して取り入れる。

#### <小中の連携>

- ・ 中学校との情報交換をしながら9年間を見通した指導の共通理解を図る。（授業改善・児童理解・家庭学習の充実）

#### <学力の基盤の充実>

- ・ 道徳の時間の充実を図ったり、友達のよさを実感できる活動を取り入れたりして共感的な学級作りに務める。
- ・ 一人一人を大切に、自己肯定感を育む児童理解に努める。
- ・ 家庭と連携して自己肯定感をもたせ、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図る。

## 6. 研究の進め方

推進委員会が中心になって、研究の方向や進め方を提案し、各部会の連携を図りながら実践を進める。

### (1) 全体会

- ・ 全体協議の場で、研究の進め方について共通理解を図り、研究の方向や方法などを決定する。
- ・ 研究主題や内容について講師を招いたり情報交換をしたりして学び合う。
- ・ 各部会の活動内容の協議や授業研究会をする。

### (2) 授業部会

- ・ 低・中・高・級外の4部会に分かれ全体会・推進委員会・活動実践部会から提案された事柄を基に授業研究を行い、研究授業をする。

※ 全体研究授業・・・各部会1回

部会授業・・・研究授業者以外も全員1回は単元を選び、単元構成を行い、略案を立てて授業をする。

- ・ それぞれの発達段階や児童の実態に合わせ、求める児童像を明確にし、達成のための方策を探り実践検証する。

### (3) 活動実践部会

<言語環境部会>

- ・ 言語能力の育成を下支えする読書活動の内容を検討し読書力の育成を図る。
- ・ 言語の感性を磨く学校掲示物の工夫や校内放送の充実を図る。
- ・ 「コミュニケーションタイム」の内容の充実を図る。

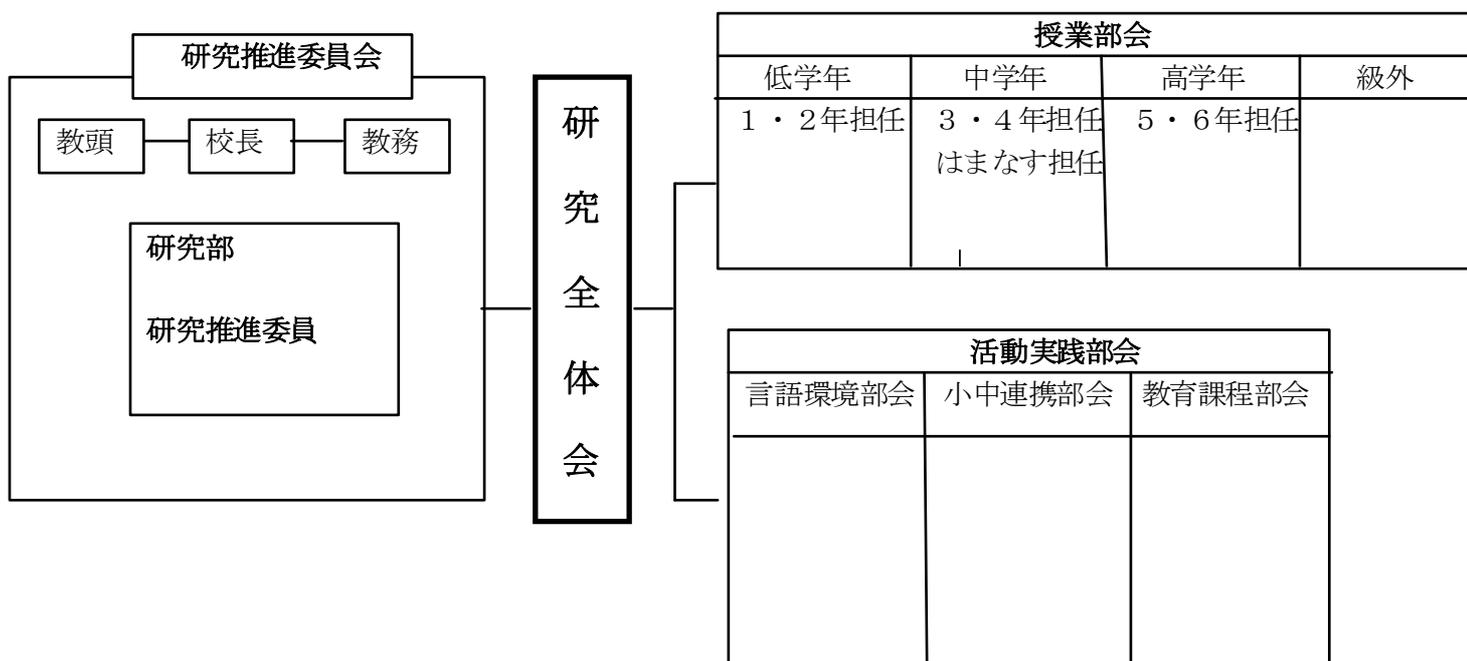
<小中連携部会>

- ・ 授業改善に向けての授業交流計画を立てる。
- ・ 主体的に取り組む子どもをめざして児童生徒間の交流を図る。

<教育課程部会>

- ・ 新指導要領の実施に向けて、本校児童の実態や教育方針を基に教育課程の編成を行う。

### 組織図



## 7. 年間計画

日程	全体研究会・推進委員会	ブロック研究会・その他
4月	第1回研究推進委員会（研究の方向・方針の検討） 第1回全体会（研究の方向・方針の決定） 第2回研究推進委員会（研究の進め方について） 第3回研究推進委員会（研究の方策について） 第2回全体会（研究の方策について）	研究の方向性について
5月	第4回研究推進委員会（研究授業の日程について） 第5回研究推進委員会（計画訪問について） 第3回全体会（学習会）	研究授業などの年間計画 教材研究
6月	第4回全体会（計画訪問指導案検討会） 第5回全体会（計画訪問）（授業整理会）	教材研究・指導案作成及び事前授業
7月	第6回研究推進委員会（1学期の反省について）	1学期の実践の反省と考察 部会授業
8月	第6回全体会（学習会）	教材研究・指導案作成 小・中連携の会（安宅小学校） 小・保連携の会（牧・安宅保育園）
9月		教材研究・指導案作成 部会授業
10月	要請訪問（授業検討会） 第7回全体会（要請訪問）（研究授業・整理会）	教材研究・指導案作成
11月	第8回全体会（授業検討会） 第9回全体会（授業整理会）	教材研究・指導案作成 部会授業
12月	第7回研究推進委員会（研究のまとめについて） 第10回全体会（研究のまとめについて）	研究のまとめ
1月	第8回研究推進委員会（研究の成果と課題について）	小・中連携の会（安宅中学校）
2月	第9回研究推進委員会（次年度の研究に向けて）	
3月	第11回全体会（次年度の研究に向けての方針検討）	